

科目名	外国史特講Ⅰ			担当教員	宮野 裕	
単位	2単位	講義区分			ナンバリング	ED3SWH403
期待される学修成果	教科教育 学校と社会					
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	中等教育教科書における外国史関連項目に関する精査					
授業の概要	中等教育教科書における外国史関連項目について、史料的根拠をチェックし、内容が正しいかどうかを確認し、そうした活動を通じて教科内容の理解を深める。					

授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	古代文明のおこりと発展
第3回	ギリシャ・ローマの文明
第4回	朝鮮・隋・唐・宋
第5回	モンゴル帝国とユーラシア世界
第6回	ルネサンスと宗教改革
第7回	オランダの台頭
第8回	イギリスとアメリカの革命
第9回	ヨーロッパにおける国民意識の高まり
第10回	産業革命と資本主義
第11回	韓国と中国
第12回	ロシア革命
第13回	アジアの民族運動
第14回	欧米の情勢とファシズム
第15回	日中戦争と戦時体制

事前学修	2時間	提示された課題をこなし、プリントを作成
事後学修	2時間	授業の見直しをプリント作りで行うこと
フィードバックの方法	授業時に直接コメントをする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	100%	
定期試験	0%	
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

新しい社会 歴史（R7年改定版）	—	東京書籍	—	—
世界史資料集（所有してあれば高校で使ったもの）	—	—	—	—
参考資料	教科書をご購入ください。ないと話になりません。世界史資料集はヒントになるので持っていてください。お持ちでなければ丸善等でご購入ください。 ほか、毎回プリントを配布しますので、たくさん収納できるファイルがあるとベター。			

科目名	外国史特講 II			担当教員	岡崎 清宜	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED4SWH404
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	① アジアとヨーロッパ、2つの社会と文化の違いが分かりました ② 「法治主義」と「法の支配」の違いを理解できるようになりました ③ 中国だけではなく、ユーラシア大陸全般で民主主義が根付かない原理を学びました					
授業の概要	この授業はアジアにおける「単一権力社会」を掘り下げていきたいと考えています。強大な権力で人々の権利が著しく制限され自由がない。そんな「単一権力社会」はどうして存在できるのでしょうか。授業では西欧とオリエントとの違いとなる「水力社会」を学びます。オリエントの制限なき「単一権力」は、多元的権力のヨーロッパとは違い、社会の「征服」「再征服」の繰り返しで生れました。中国では、支配者が人々に命令する「法」しかありません。10世紀以降の中国はどのような困難に見舞われたのか。中国共産党が解決しなければならなかった課題とは何か。現代中国において民主化を困難にするものは何か。これらを学びます					

授業計画	
第1回	ガイダンス 授業計画の確認と説明、履修上の注意事項など
第2回	権力と支配 権力や支配とは何でしょうか。3つ学びます
第3回	都市のちがい ヨーロッパの中世都市と北京・長安はどう違うのでしょうか
第4回	水力社会と帝国 エジプト、メソポタミア、秦
第5回	遊牧民社会 モンゴル～ウクライナ～中東
第6回	社会の征服、『再征服』 遊牧民と農耕民の相互征服・再征服
第7回	律令国家 隋唐帝国とか古代日本の法の性格
第8回	人々の権利を守る法をもたない社会 大岡越前の「大岡裁き」の正体は何か？
第9回	皇帝独裁政治の完成と科举 官僚になって世の中を治めるのが理想とされる社会、中国
第10回	文人たちの中華 伝統中国の支配層、「地主＝文人＝官僚」の文化を学びます
第11回	「宗族」と呼ばれる中国特有の親族集団はどうして出現するのか 辺境を漢族社会化した力
第12回	秘密結社という「作法」 漢族社会の不安定化の中で生きぬく知恵
第13回	中国革命と現代 毛沢東たちが再建した「単一権力社会」
第14回	民主化のゆくえ 「裁判を受ける権利」「法の支配」の不在がもたらす未来
第15回	まとめ 質疑応答など

事前学修	2時間	教科書などはありませんが、高校時代に世界史を学んでいることを前提として授業します。学んでいない人はややきついかもかもしれません。新聞を丹念に読みニュースを追いかけることによって現代の中国社会に関心を抱くことです。
事後学修	2時間	事後学習は授業でえた知見で現代中国を眺め直すことです。前後に変化があれば、これに勝る喜びはありません。
フィードバックの方法	毎回、授業の終わりにリアクションペーパーを配布するので、質問があれば提出。次回の授業冒頭で復習をかねて回答する	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	80%	理解したうえで議論できるか
上記以外の試験・平常点評価	20%	積極的発言や質問
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
プリント配布	プリント配布	プリント配布	プリント配布	プリント配布
参考資料	参考資料としては、 ・ フランシス・フクヤマ『政治の起源』講談社、２０１３年 ・ 石井知章『K・A・ウィットフォーゲルの東洋的社会論』社会評論社、２００８年			